

## 中国における中学校・高校の制服に関する意識と実態

○智 勇全（東京学芸大・院）・ 鳴海多恵子（東京学芸大）

**目的** 中国では、近年、学校制服の導入校が増えつつあるが、デザインなど種々の点で改良を要することが指摘されている。また、制服の導入意識に関する研究は見られず、今後の中国の学校制服発展のために、今はこれらの点を把握する重要な時期であると考え、本研究では中国における制服のあり方を検討する基礎資料を得る目的から調査研究を行った。

**方法** 質問紙による調査を2回実施した。1回目の調査（1998年7月）ではハルビン市、成都市の制服のない中・高校の生徒（995人）とその親を対象とし、2回目の調査（2000年7月）は成都市の制服を導入している中・高校の生徒（200人）と教師（20人）を対象とした。

**結果** 1回目の調査結果では制服がなくても生徒の94%、親の97%は制服を知っており、制服の教育的効果、役割を認知していた。デザインは女子はセーラー服かブレザーズ、男子は詰め襟が好ましいと考えていた。また、同じ色、柄、形がよいと考え、色は白、青、黒、黒、紺、黄が適していると考えていた。2回目の調査時期には成都市の制服導入率は46%であったが、通学服として指定しているのは21%であった。調査校のうち、国立学校の制服形態は運動服型で、私立学校はブレザーズ型であったが、双方共にその制服のデザインの決定に、生徒は一切関わっていなかった。これらの生徒の84%は今の「学校制服は好き」と答えていたが、国立学校の生徒は運動服型よりブレザーズ型やセーラー服を好んでおり、国立・私立共に、着用している制服の色、サイズ、素材に不満を持っていた。2回の調査を通して生徒、親、教師共に制服導入に対しては肯定的な意識がみられ、教師が制服の教育的効果を期待しているのに対し、親は実用面を期待している事がわかった。